

平成21年台風第9号災害に伴う  
中央栗市消防団活動の記録

平成22年1月  
中央栗市

## 平成21年台風9号災害に伴う宍粟市消防団活動の記録

### 1. 参集状況

- (1) 自主参集 9部、1分団 (50名)
- (2) 命令召集 95部、4分団 (658名)
- (3) 参集内容

今回の災害は、真夜中での召集と言うこともあり、団員への連絡に大変苦慮いたしました。反省点としては、まず、大雨に関する警報が出ていたにもかかわらず、事前の警戒体制ができていなかったことや今までにない想定外の災害が発生したことなどが考えられます。又、団本部と各支団、各分団相互の詳細な情報収集に電話や携帯が使えず、的確な指示、命令が交信出来なかった反省点が残ります。

### 2. 活動状況 (8/9夜～8/10朝まで)

- (1) 待機 2部
- (2) 巡視・警戒 72部、5分団
- (3) 土砂等撤去作業 9件
- (4) 水防工法 69件
- (5) 避難誘導・交通整理 48件
- (6) 人命救助・避難勧告 16件
- (7) 活動内容

ア、巡視・警戒により被害状況の把握に努めた後、人命危険を優先に考え、自治会と協力のもと、避難勧告の周知、人命救助、避難誘導、水防工法、交通規制等を実施しました。

イ、水害の規模が急激に広範囲に及んだため、避難勧告発令時には道路、橋の損壊により、避難できない地域もあり、結果として動かなかったことが人的被害に及ばなかったものと思われれます。

ウ、団員の参集当初は、少人数なため、数力所の災害現場への配備に苦慮するとともに、安全管理にも不安を残しました。

### 3. 活動状況 (8/10朝～8/16まで)

- (1) 待機 13部、2分団
- (2) 巡視・警戒 34部、6分団
- (3) 土砂等撤去作業 61件

(4) 水防工法 17件

(5) 避難誘導・交通整理 7件

(6) 人命救助 1件

(7) 活動内容

ア、被害状況の調査・報告をすると共に水防工法活動や土砂等の撤去の復旧作業に全力を傾注しました。又、交通規制を実施していくうえで、関係路線の情報内容の収集に困難をきたし、一般車両への正確な情報伝達が出来ませんでした。

イ、団員の一部は消防団活動後もボランティアとして、復旧作業に参加しました。

#### 4. 自治会・自主防災組織との連携状況

(1) 自治会や自主防災組織と連携がとれた 75部

(2) 自治会や自主防災組織と連携がとれなかった 27部

(3) 連携内容

ア、ほとんどの部や分団が、自治会や自主防災組織と連携をとり、協力しあって活動できたが、災害対策本部等からの情報の共有化に乏しかった。

又、複数の自治会を管轄している部や分団の場合は、連携方法に問題を残したため早急に対策を講じる必要があります。

イ、今後においても自治会員と活動を共にしていく上で、連絡網の整備や活動内容の分担並びに責任の度合いなどを明確化しておく必要があります。

ウ、水防活動要請が多数で、団員の能力に限界を感じるとともに、安全管理に課題を残しました。

エ、隣接の自治会並びに分団相互の助け合いの必要性からも、応援協定等の申し合わせが必要であります。

#### 5. その他 災害・防災に関する対応状況の課題

(1) 避難勧告等の判断・伝達マニュアル、避難誘導マニュアル、避難所運営マニュアルなどの作成と統一が必要である。

(2) 防災無線、衛星電話などの災害時でも使用可能な通信の整備と停電後の電源対策が必要である。

(3) 災害種別に対応できる、指定避難所の見直しが必要である。

(4) 災害時要援護者リストが必要である。

(5) 定期的な関係機関合同の水害想定訓練が必要である。

(6) 河川管理者、ダム管理者、道路管理者等との連絡内容・連絡体制の見直しが必要である。

		山 崎 町	一 宮 町	波 賀 町	千 種 町
8 / 9 参 集 状 況	自主参集	2部	5部	2部	1分団
	命令召集	55部	26部	14部	4分団
	召集人員	・自主参集 8名 ・命令召集 372名	・自主参集 27名 ・命令召集 226名	・自主参集 11名 ・命令召集 93名	・自主参集 2名 ・命令召集 112名
	良かった点	・各団員が緊急召集にすばやく対応してくれた。 ・水害に対する意識の高さを感じた。	・土砂災害警報というあまり出ない警報だったため、分団長判断で、召集をかけた。 ・部長判断で全団員に召集をかけた。2件	・夜遅かったが、携帯電話と有線放送で連絡がとれた。 ・遅い時間にもかかわらず、直ぐに団員が集まってくれた。 ・雨の中、ケガなく終わって良かった。	・市民局より出動命令を受け、迅速に召集指示ができていた。
	今後の課題	・真夜中であったため、全団員に連絡が取れず、召集人数が少なかった。 (携帯がつながらない、深夜の連絡体制の不備) 7件 ・酒を飲んでいる団員は車の運転ができない。 ・活動終了後、詰所待機の指示があったが、その後の明確な指示を本部から出してほしかった。	・ライフラインの不通により、召集ができなかった。 ・地元ひ門の水位が警戒水位を超えていたのに、自主警戒にあたれなかった。 ・旅行中の正副分団長、部長への不在連絡がされていなかった。 ・各分団、各部内において、報告・連絡・相談がもっと必要。 ・参集時間がまちまちなため、参集後、即出動したため、団員の把握に時間を要した。 ・「iのまち通信緊急通報システム」による命令召集をすべきである。訓練成果が生かされていない。 ・通信・道路等のライフラインの不通により、全団員への召集が困難であった。指示のタイミング、判断が難しかった。 2件	・夜遅くの召集は、全員寝ていて連絡が付きません。有線の方が起きると思います。 ・今後の課題は、長時間の降水量を注視した警戒態勢が重要。 ・町外居住者団員が数名いるので、人数確保が課題。 2件 ・風水害での出動・活動マニュアルが必要。	・今後は、早めに状況を見極め、団員への自宅待機の命令や、警報が出る前に土のうなどの準備をしておくことが理想だと思う。 ・台風の暴風圏内でもなかったのに、大雨警報が出ていたものの、誰しも油断していたところがいづらかはあったと思う。 ・町外居住者団員を召集して、大変危険なめに合wash、反省している。
その他		・再入団員の召集はなし。4部 ・再入団員の召集をする。1部	・再入団員の召集はなし。3部 ・再入団員の召集をする。3部		

		山崎町	一宮町	波賀町	千種町
8/9 夜から 8/10 朝までの活動状況区分	待機	器具庫待機 1部		自宅待機 1部	
	巡視・警戒	管轄内の巡回、警戒 41部	管轄内の巡回、警戒 21部	管轄内の巡回、警戒 10部	管轄内の巡回、警戒 5分団
	土砂等撤去作業	・用水路の閉鎖作業。 ・主要道路の泥の撤去作業。 3件 ・床下浸水箇所の泥の撤去作業。	・山からの土砂の撤去作業。	・国道・市道への流木、土砂等の撤去作業。 3件	
	水防工法	・土のうの準備と土のう作り。 3件 ・積み土のう工法の実施。 22件	・土のうの準備と土のう作り。 8件 ・積み土のう工法の実施。 22件	・土のうの準備と土のう作り。 3件 ・積み土のう工法の実施。 7件	・積み土のう工法の実施。 4件
	避難誘導（交通規制含む）	・周辺住民に避難要請する。 8件 ・道路冠水による通行止め誘導。 11件	・避難されていない家を回り、避難所まで誘導した。 12件 ・通行不能による交通整理。 8件	・市民に声をかけ、避難される方の誘導を実施。 ・避難所周辺を発電機で照明する。 ・一人暮らし老人を避難所へ誘導。	・住民に声をかけ、避難される方の誘導を実施。 3件 ・通行不能による交通整理。 3件
	人命救助（避難勧告含む）	・自治会の決定を受け、避難勧告を各戸ごとに行った。 ・道路上の車の撤去と人命救助にあたる ・身体の不自由な方の確認と誘導補助。 ・自力避難できない人を、負ぶって避難	・浸水した家屋より、老人を救助する。 ・床上浸水した家の人を救助する。 3件 ・住民への避難勧告を呼びかける。 5件 ・部長判断でトラロープを伝えて、集落全員を救助避難させる。		・住民への避難勧告を呼びかける。 2件
	良かった点		・災害活動後もボランティアとして、多くの団員が復旧作業に参加した。 2件	・分団として、活動、協力できたことが良かった。	・各部から2～3名出動して、土のう作りをしたことは良かった
今後の課題	・ダム の放流情報は何時間後にどれ位の水位になるのか。 ・学校・公園等の砂場の砂を、緊急時は許可なしで使用できる体制が必要。 ・本団に隣接分団や他町の道路状況の報告を受けるべきだった。	・詰所は床上90センチ浸水、団員5名の車輛も水没、すべて廃車となる。 ・被害箇所が多すぎて、状況把握に困惑する。 ・防災無線がつながりにくく、固定電話、携帯電話が不通となった。 2件 ・巡回中止の指示が早く出たため、団員の安全が守れた、もう少し指示が遅れていたら、団員の人的被害が出たと思われる。 ・家屋への浸水予防の活動依頼が沢山あったが、手をつけられない状況だった。		・多くの場所に団員を出しており、人員の把握が難しく、安全確保が難しい。 ・団員の安全確保を優先したら、住民からクレームがあった。 ・避難を説得したが、理解してもらえなかった。 ・道路の寸断で動けない分団があったため、今後は地域の中で土砂等を確保して、土のう作りに対応したい。 ・今後は、警報が出る前に事前準備が必要と思う。	

		山崎町	一宮町	波賀町	千種町
8/10 朝から 8/16 までの活動状況区分	待機	自宅待機 7部 器具庫待機 3部	器具庫待機 1部	自宅待機 2部	器具庫待機 2分団
	巡視・警戒	管内の巡回、警戒 17部	不審者発見に伴い、夜間警戒の実施 1部 自治会内の災害情報収集 8部 消火栓の点検（水源）、器具の点検 4部	自治会内の災害情報収集 3部 管内の巡回、警戒 1部	消火栓の点検（水源）の点検 1分団 管内の巡回、警戒 1分団 自治会内の災害情報収集 4分団
	土砂等撤去作業	・道路の泥、ゴミ、流木撤去作業 11件 ・土のうの撤去作業。 6件 ・床上浸水した家屋等内の泥等の撤去作業。 5件	・床上浸水した家屋等内の泥等の撤去作業 10件 ・道路の泥、ゴミ、流木撤去作業。 12件 ・土のうの撤去作業。 3件 ・農地内の流木等除去作業。 ・重機、クレーンによる除去作業。	・用水路の土砂等の撤去作業。 4件 ・床上浸水した家屋等内の泥等の撤去作業。 ・道路の泥、ゴミ、流木撤去作業。 2件	・床上浸水した家屋等内の泥等の撤去作業。 2件 ・道路の泥、ゴミ、流木撤去作業。 ・土のうの撤去作業。 ・用水路の土砂等の撤去作業。
	水防工法	・積み土のう工法の実施。	・積み土のう工法の実施。 5件	・積み土のう工法の実施。 8件	・土砂崩れの所にブルーシートを設置する。 ・積み土のう工法の実施。 2件
	避難誘導（交通整理含む）	・トンネル前で通行止めの説明と迂回の誘導。	・通行不能による交通整理。 2件 ・キャンプ場利用者を説得し、避難所へ誘導。		・通行不能による交通整理。 2件 ・避難希望者を避難所へ誘導。
	人命救助		・道路の通行止めに伴い、救急患者の搬送。		
	良かった点		・消防団活動終了後も、個人判断で自治会等のボランティア活動に参加してくれた。 ・自主参加による、復旧作業に参加。		・一瞬もせずに頑張ってくれた、人的被害がなかったのが、幸いであった。 ・水害を教訓に、運動会で水防工法訓練を住民に披露した。
	今後の課題	・各機関との連絡調整がなかったので、一般車両に状況説明するのに困った。			・自治会内が停電のため、炊き出し作業ができず、人材確保ができなかった。

		山 崎 町	一 宮 町	波 賀 町	千 種 町
自治会・自主防災組織との連携状況区分	連携がとれた	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会長との連携により対処する。 30部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会長とは常に連絡を取り合い、状況を共有することができた。27部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会長及び役員と連携を取り、作業を迅速に進めた。13部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会長との連携はスムーズに行きました。5分団</li> </ul>
	連携がとれなかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害がなかったため、特に連携はなかった。4部</li> <li>自治会長からの、要請がなかった。12部</li> <li>連絡先が分からなかった。</li> <li>連携は持たなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会との連携はなかった。2部</li> <li>2つの自治会と共同なので、連携がうまくいかなかった。</li> <li>携帯電話の不通により、連携がうまくいかなかった。</li> <li>部長が不在だったため、混乱した。</li> <li>自主防災組織との連携がなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際にはあまり連携ができなかった。2部</li> <li>今回は要請なし。</li> </ul>	
	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場での自治会長との打ち合わせがスムーズに出来た。</li> <li>自治会との防災組織により、防災訓練等を実施している。</li> <li>自治会、民生委員と連携し、独居老人宅へ巡回した。</li> <li>自治会長からの連絡により、川の近くの人々に避難を勧めた。</li> <li>自治会と合同で、孤立民家へ救助活動の実施。</li> <li>自治会と合同で、水防活動の実施2件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所において、炊き出しを行うなど訓練成果がでていた。2件</li> <li>自主防災組織との連携が大変効果よく実施された。2件</li> <li>自治会との連携がスムーズに出来た。6件</li> <li>危険箇所への立入禁止のロープを設置。</li> <li>避難要請のある家に、団員を配備する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>住民からのクレームに自治会が対応してもらえた。</li> <li>行政からの指示の前に、自治会等と協議して、避難勧告を発令した。</li> <li>自治会役員と団員が一緒になって、倒木の撤去などの活動を実施した。</li> <li>被害調査は、自治会の協力があつたので、早めに把握できて助かった。</li> </ul>
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>機動分団は、複数の自治会を管轄しているため、連携がとりにくく、今後は調整会議が必要です。</li> <li>自治会からの要請に、どこまで消防が介入するのか、不安である。</li> <li>被害が拡大してくると、自治会長との連携がとりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在取り決めている、避難経路の選定を遙かに越えた災害であったため、再検討する話し合いを設けた。</li> <li>何かあれば、責任の所在がどこにあるのか、指示命令系統にも問題があるのではないか。</li> <li>災害時の無線設備の充実を図るべきではないか。</li> <li>孤立状態の中では、自治会と消防だけでは、活動の限界を感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道が土砂で通行止めの際、市との連絡がとれず、地元住民への通達がうまくいかなかった。</li> <li>大地震を想定した訓練を毎年実施しているが、今回の災害には全然役に立たなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震による避難訓練と違い、水害の場合は避難する判断に困難を感じた。</li> <li>詰所に電話及びオフトークがないため、大変困った。</li> <li>自治会の中に各隣保ごとに災害対策委員のような、災害時に動ける役員を設けてほしい。</li> </ul>

		山 崎 町	一 宮 町	波 賀 町	千 種 町
その他災害・防災に関する対応区分	活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自治会からの要請に、分団、各部がどこまで対応できるか、不安に思う。</li> <li>今回の災害時の連絡手段が、自分たちの携帯電話しかなかったことは、あまりにも悲しすぎる。又、水に強い通信手段が欲しい。</li> <li>ダム放流が、いつあったのかわからない。ダム放流は火災時の緊急連絡メールを使ってでも、早い段階で情報がほしい。</li> <li>道路閉鎖に伴い、一般車両の問い合わせに対し、情報収集が不可能なために、対応出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土のうが十分に確保できず、満足に防くことができなかった。</li> <li>防災無線が、一宮全域で一齐に使用したため、100%使用できなかった。</li> <li>指揮命令が、団本部か支団本部なのか不明確である。</li> <li>通行止めに関して、本部、地元部、警察等と行き違いが生じた。重大な事故につながる恐れがある。</li> <li>今回の災害について反省した結果、特に装備の貧弱性について反省し、購入した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の連絡網をきっちり決め、徹底することが大切</li> <li>何でも消防団に言うのはやめてほしい、どこまで関わっていくべきなのか、悩ましい問題である。</li> <li>今後このような災害は必ず起こると思われるので、今以上の訓練を団員一丸となって頑張っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出勤をかけるタイミングや判断基準がわからなかった。次々に入る情報に対処しきれなかった。</li> <li>全ての被害が一箇所に集まり、対応が後手後手に回ることがあった。</li> <li>団員数が少ないため、地元自治会のごことで精一杯となり、各部及び各分団と連絡する余裕がなかった。</li> <li>詰所が借家のため、住民からの連絡が入りにくかった。場所さえ知らない人がいた。</li> <li>長時間に雨が降ることが分かっていたので、対応が遅れた。又、危険箇所以外でも、土石流等が発生した。</li> </ul>
	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会との連携が良く、避難勧告が発令されてから、全員避難まで早い時間で終了できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分団長の指揮の元、各団員が一致団結して、普段の訓練成果を出した結果が人命被害がなかったものと確信する。</li> <li>自主防災組織と協力し被害を最小限に食い止められ団員も無事であったことは日々の消防活動の成果だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民一人ひとりが、地域の状態を把握しているため、早めの避難など災害に遭わないよう常日頃から心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>玄関に防災マップが作成されていたのは大変良かった。</li> </ul>
	今後の対応・要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災マニュアルの見直し作成、各関係機関の連絡網作成、最新情報などの公開、掛保川水系の河川改修、災害メールを全団員へ送信。</li> <li>自治会との協力、話し合い、情報交換が大切。</li> <li>防災資材の整備、補助金のアップ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路が寸断され、通信手段が絶たれ、いたる所で災害が発生した状況では、少ない団員では限界を感じた、今後の分団再編に検証していただきたい。</li> <li>固定電話、携帯電話、防災無線、テレビ等が不通となったため、今後検討していただきたい。</li> <li>召集命令や避難勧告をする場合は、しーたん通信やサイレン吹鳴などを活用する検討をしていただきたい。</li> <li>避難所である公民館が浸水の恐れが出てきて移動した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地デジ、有線等で交通情報を出してもらいたい。</li> <li>長時間の災害活動には、交代しながら食事、休憩等が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民局に地元の人が少なく対応出来ていない感じだった。</li> <li>団員に指示するとき感じた「命」への責任については、上の方に理解していただきたい。</li> <li>避難状況、交通などに対応する専門の部署を作ってもらいたい。</li> <li>新入団の勧誘に、力をかけてほしい。</li> <li>自治会役員が市職員の場合、関わりがなくなり、不便です。避難場所(公民館)が適切な場所でない。避難勧告が伝わらない。</li> <li>分団、部の責任が大きすぎる。</li> </ul>